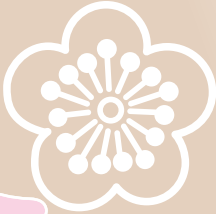


慶應看護同窓会

紅梅會會報



第115号

会長あいさつ

66回生 茶園 美香



新緑がさわやかな季節になりました。皆様ご健勝にお過ごしのことと思います。

2024年1月1日に発生した能登半島地震とその後の大水害、さらに各地での猛暑や水害による被害、雪害と日本列島がさまざまな自然災害に遭いました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。時間の経過とともに復旧・復興したニュースを耳にしますが、いまだに復興への道が遠いというニュースも聞き、胸が痛くなります。まだまだ生活への支障がある中で、状況に懸命に向き合っている方々の生きる力と知恵、助け合われている姿に尊敬の念を抱きます。自然災害がいつどこで発生するかわからない状況です。各自が防災知識を持って行動することの大切さを痛感しております。先日、ウェザーニュース¹⁾で、天気予報のさがし方が福澤諭吉先生だという記事を見つけました。135年前(明治16年)、福澤諭吉先生が発行された「時事新報」で掲載された「天気報告」が日本における天気予報の始まりだそうです。福澤先生は「日本人の小胆近視という悪い癖がなくなるだろう」と述べたそうです。福澤先生の先見性と活躍の幅の広さを改めて感じています。著しく進歩した天気予報をうまく活用し、先見性のある行動をとって暮らしたいものです。

さて、2024年度の紅梅会会報の発行について大変お待たせいたしました。2024年度の書面総会の活動計画で提案していた会報と書面総会資料を同時に発送し、時期を、今回(2024年度版)から、連休明けの5月上旬に変更しました。その理由は経費削減のためです。紅梅会で年間2回(会報と総会資料)封書を発送すると、会費収入が減少している中では郵送料が大きな負担となるため決定いたしました(詳細は書面総会資料)。ご理解ください。

今回の会報では、能登半島震災で被災された多田弥生氏と、災害支援活動に参加された鈴木恵巨氏と川添高志氏に執筆をお願いしました(P9)。貴重な体験を共有させていただき、災害に対してできることを考える手掛かりにいただければ幸いです。

2024年6月には対面で研修会と新病院棟の見学会を行いました。研修会では貴重なお話を聞かせていただきました。見学会では、最先端の医療を見学し医療の進歩に驚きの声が上がっていました。マスクを装着していましたが久しぶりの対面でみなさまの笑顔とともに会話も弾んでいました。予想をはるかに超えた多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。この企画は加藤恵里子看護部長および看護部の方々、多職種の方々の多大な協力で実現いたしました。心からお礼申し上げます(P3、4)。

2025年問題の一つに超高齢化が取り上げられています。新井康通教授(看護医療学部)らの百歳研究で、百歳者は他の高齢者よりも心臓や腎臓の機能の老化が遅かったそうです²⁾。老化を遅くしている理由は、身体活動(体操、散歩などの運動)を継続し、バランスよい食事をしていることだったそうです。それに加えて様々なことに興味関心をもって開放的に暮らすことがWell-beingを維持する特徴の一つだったそうです³⁾。個々の状況に応じた運動を継続し、いろいろなことに興味を持って、心身ともに健康に過ごされますことを祈念しております。

1)ウェザーニュース：<https://weathernews.jp/s/topics/201804/020145/>
2)日経BP：<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00043/040100011/>
3)慶應義塾 座談会・インタビュー 慶應義塾グローバルリサーチ、<https://www.kgri.keio.ac.jp/research-synergies/talk-1.html>
注1)天気報告とした理由を福澤先生は、「当時、東京気象台は天気予報を発表していなかったため3日前の天気を掲載した」と述べている。

第115号の 主な内容	◆ 会長あいさつ	1	◆ 2024年度新会員紹介	8
	◆ 2024年度紅梅会書面総会報告	2	◆ 能登半島地震の経験と今	9
	◆ 2025年連合三田会大会について	2	◆ 同窓生の災害支援活動	9
	◆ 慶應看護100年記念看護医療学部学生奨学金	2	◆ 同窓生の幅広い活動	10
	◆ 寄付者の報告	2	◆ 同窓会だより	11
	◆ 紅梅会研修会開催報告	3	◆ 2024年度紅梅会役員・委員	12
	◆ 新病院棟見学会報告	4	◆ 紅梅会事務局よりお知らせ	12
	◆ 看護部だより	5	◆ ホームページ委員会からのお知らせ	12
	◆ 看護医療学部長の挨拶	6	◆ 訃報	12
	◆ 看護医療学部だより	7		

会報発送者数2944名(2025年3月31日現在)



2024年度(第81回)紅梅会書面総会報告

2024年度の総会は書面総会といたしました。5月10日に2981通の書面総会資料をお送りし、525通の回答をいただきました。

2023年度の審議事項については、以下の回答をいただきましたので、ご報告いたします。

1. 審議事項について

審議事項4項目(2023年度収支決算報告・会計監査報告、2024年度事業計画、2024年度新役員、24年度収支予算)については全て承認されました。

2. アンケートについて

今回は研修会、新病院棟見学会の出欠や近況を伺いました。

今年はクラス会を開催した学年が多かったようです。また研修会・病院見学会開催への高い評価を多数いただきました。

近況報告としては、さまざまな看護の現場でのご活躍の様子や日々の暮らしの中で健康に留意して穏やかに過ごしていらっしゃる様子が伺えました。



2025年連合三田会大会について

開催日は、2025年10月19日(日)です。詳細は決まり次第「慶應連合三田会」ホームページに掲載されます。

慶應看護100年記念看護医療学部学生奨学金

私が目指す看護とは

私は、今回頂いた奨学金を活用して、コミュニティナース¹⁾について学ばせていただきました。コミュニティナースとは、「人とつながり、まちを元気にする」と説明されており、100人いれば100通りの活動の仕方があるとされています。私は今回、福井県福井市の殿下地区で行われたコミュニティナースのインターンに参加してきました。

今回のインターンでは、殿下地区の様々なイベントに参加させていただき、私自身も新たなつながりを生み出せるよう、新生児や乳幼児と地域の高齢の方が交流できるイベントなどを企画しました。この活動を通して、私はコミュニティナースは「安心感や元気を与える存在」なのではないかと考えています。地域活動においては、看護学生や看護師として関わるよりも、人対人として関わる方がより深い関わりが可能となり、信頼関係の構築にもつながるということを実感しました。コミュニティナースは、人の暮らしに溶け込み、関わることでできる看護師で、お互いに頼り頼られる関係を目指しています。インターンは3週間と

学部4年生(2023年度奨学金授与者)

いう短い期間でしたが、その後も何度かその地区を訪れており、行くたびに私自身も安心でき、地区の方からも元気もらったと言っていたり、今でも交流を持つことができています。

この活動を通して、私は暮らしの中での看護により興味を持ちましたが、そのためにも知識や技術を身に付けたいと思い、今は病棟看護師として働いています。まだ仕事に慣れることに精一杯ですが、コミュニティナースのような関わり方は病棟看護師としてもできることがあるのではないかと考えています。病棟にいますと、どうしても患者と看護師という関わり方になってしまいますが、その方がどのようなことを大切にしているのか、どのような暮らしをしていたのかというようなことにも興味を持って患者と関わることは、継続看護にもつながるのではないかと考えています。そして将来的には、暮らしに溶け込みながら、必要な人に看護を提供し、予防医療にも携わっていきたいと思っています。

1)コミュニティナース:URL <https://community-nurse.jp/cn>

寄付者の報告

次の方にご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。さらに充実した紅梅会活動をするために、有効に活用させていただきます。2024年度:岡本恵子様(厚女76回生)1万円、他1名
ご寄付は随時受け付けております。引き続き、一層のご支援をお願いいたします。

【寄付金の納付方法】

振込用紙で会費と共に納入する場合には、余白に「寄付〇〇円」とご記入ください。その他①ネットバンキングによる振込②ATMからの振込ができます。

①②の場合は、振込が完了したら、

紅梅会(koubaikai.1934@gmail.com)までご連絡ください。

①②の場合の振込先

銀行名: ゆうちょ銀行

店名: 〇一八(読み ゼロイチハチ)

店番: 018

預金種目: 普通預金

口座番号: 6174194

口座名義: ケイオウカンゴドウソウカイ コウバイカイ

ご依頼人の氏名の前に、振込用紙(または封筒・ハガキ)に記載されている会員番号(不明な場合は回生、または卒業年)を入力してください。

(例)N12345 コウバイハナコ



紅梅会研修会開催報告

紅梅会研修委員会

2024年6月8日(土)13時30分より慶應義塾大学病院2号館11階会議室にて、紅梅会研修会を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大後は研修会を開催できておりませんでした、久しぶりの開催に至ることができました。講師として、岡本恵子さん(76回生・新宿区福祉部高齢者支援課)、久保田康之さん(元四谷高齢者総合相談センター社会福祉士)のお二人をお迎えしました。

コロナ禍では外出の自粛や三密の回避といった対応をはじめ、発熱や咳が出現し体調が悪化しても医療機関にかかることが難しい状況がありました。普段から健康を維持していくこと、主治医や訪問看護師、ケアマネなどの支援者と健康危機に備えていく必要性を改めて考えさせられました。そのような状況から、自分のこととして、看護師として、地域の中で日々生活していくことを見つめなおす機会となるよう、「地域の支援者に聞く!介護保険のすすめ」をテーマにご講演いただきました。研修会当日は75名の方にご参加いただき盛況に終えることができました。

まずは久保田さんより、地域包括ケアシステムの中核を担う地域包括支援センターの立場から、介護保険の現状と多職種連携についてお話しいただきました。本人のニーズ及び意思決

定を支援し、サービスを活用しながら多職種で連携することの重要性を感じました。続いて岡本さんからは、様々な現場を経験し現在区役所に勤める看護師の立場から、地域連携における看護師の役割についてお話しいただきました。地域包括ケアシステムにおいて看護職が医療と介護・福祉の橋渡しの役割が期待される中で、医療機関における退院支援の現場、住み慣れた地域での現場において、それぞれどのように連携して支援していくか考えました。

研修会後のアンケートにおいても、参考になった内容として、“岡本さんのお話の中で、様々な現場を経験されてきたからこそのご意見は貴重でした”、“各機関の連携の問題はみんなとても大事なことはわかりつつも、どこの地域でも連携が難しいということを再確認した”、“決まりごとのようなシステムの構築ではなく、システムを基盤に個別に対応することの難しさを感じました”、“ケアマネのアセスメントとナースのアセスメントが違うというのはとても納得できました”などの感想がありました。

岡本さん、久保田さんの今後の益々のご活躍を祈念するとともに、参加者の皆様、開催にご協力いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。



次回研修会

「能登半島地震の経験から語る災害時の情報課題と健康支援」

講師：慶應義塾大学看護医療学部准教授 宮川 祥子氏

日時：2025年7月9日(水)17:30～19:00(Zoomによるオンライン開催となります。)

申込み：2025年7月4日(金)締切。先着300名。

参加のお申し込みは右記二次元コードよりお願いいたします。



株式会社ケアーズ
白十字訪問看護ステーション



お問合せ hakujuji@muse.ocn.ne.jp
03-3268-1815



在宅ケアのはぐむ力で
お互いを育ちあえる実践の場に

訪問看護は
いのちに寄り添うケアを
生活の場にお届けします。

- ◆看護小規模多機能「坂町ミモザの家」も運営しています。
- ◆東京都からの委託で東京都訪問看護教育ステーション事業を行っています!
- ◆訪問看護師(新卒看護師さんも是非)、介護支援専門員(ケアマネジャー)募集中!

詳しくはHPをご覧ください

<http://www.cares-hakujuji.com>



新病院棟見学会報告

慶應義塾大学病院では2018年より内閣府の戦略的イノベーション創造プログラムに採択されIT化・AI化が進められています。そこで今回は、慶應病院のAI技術を活用した取組（AIホスピタル）に焦点を当てて見学する機会を設けました。

詳細：<https://www.hosp.keio.ac.jp/about/aihospital/>

学4期生 山崎 糸子

2024年6月8日に開催された慶應病院の見学会に出席しました。初夏の日差しを浴びて、燦然と佇む新しい慶應病院の姿は、久しぶりに訪れた者にとって、眩しく目に映りました。それまで私の中では、学部卒業時（2008年）、旧1号棟（1965年竣工）がまだあり、全体的に昭和感が漂う建物の印象で、時が止まっていました。特に孝養舎から病院へ向かう職員用の通路は、心霊スポットかのような暗さだったと記憶していた（病院実習の緊張感から、余計にそう感じさせていたのかもしれない）ため、明るく開放的になった新しい病院の姿は、眼を見張るものでした。

見学会では、初めに3階の職員専用の区画を拝見しました。従来と比べて職員エリアに入る際には認証カードが必要になるなど、患者エリアと職員エリアが明確に分けられ、セキュリティや感染対策などのレベルが格段に上がっていました。また、患者搬送用の広い通路も定められており、動線がとても機能的でした。職員用ラウンジでは、新型コロナウイルス感染症の流行により職員食堂が閉鎖となり、その後「温かいものが食べたい」という要望を受けて、新たにケータリングサービスが導入されたというお話を伺いました。職員の方々が厳しい情勢の中で勤務されていたことに思い馳せ、これからは、この新しいラウンジでリラックスできますようお願いばかりです。

続いて、2階の外来エリアでは、様々な最新機器について解説いただきました。自動車椅子の「WHILL」は、タッチパネ



自動車椅子「WHILL」



着衣型ホルター心電図

ルで目的地を選択すると、全自動で採血室や薬剤部に行くことができます。人を降ろした後、車椅子が元の場所に向かって自走する様子は、さながら近未来の病院でした。また、LINEによる外来呼び出しのサービスが、慶應病院でも利用できるようになったほか、医療アプリの「MeDaKa（メダカ）」で、一部オンライン診療や検査データの閲覧などが可能になっており、外来の利便性が向上していました。更には、患者の通院や検査の負担を軽減できる着衣型のホルター心電図も臨床で使用されているとのことでした。こういった最新テクノロジーを導入できるのは、産学連携が可能な慶應の強みではないでしょうか。



お薬ピッキングロボット

1階の薬剤部では、一部調剤を自動化した「お薬ピッキングロボット」や、薬を個別に病棟へ届ける「お薬搬送ロボット」を見学しました。指示通り俊敏に動くロボットたちの存在は、頼もしいものでした。医療が高度化・複雑化する中で、人員の負担を減らすロボットとの共存が、必要不可欠になってきていると実感しました。

慶應看護ならびに医学部100周年を迎え、病院の建て替えという歴史的なターニングポイントで病院見学会に参加できたことは、大変貴重な経験となりました。母校の発展を感じられるのは、卒業生として、とても嬉しく思います。企画・運営をしてくださった皆様に厚く御礼を申し上げるとともに、益々の発展を祈念しております。

2024年度の事業計画は「未来を見据えた新たな医療の推進」をキーワードに掲げ、未来に向けて特定機能病院としての機能をより高められるよう具体的なアクションプランに取り組んでおります。看護部の近況をご報告いたします。

1. 2024年4月看護師採用状況

看護部長 87回生 加藤 恵里子

新採用者：130名（うち男性看護師5名、経験者採用5名）

新卒看護師：124名（看護医療学部卒67名、他校卒57名）

出身校：北海道・東北 6名（4.7%） 関東・中部 117名（90.0%）

近畿・中国・四国 4名（3.0%） 九州・沖縄 3名（2.3%）

2. 看護医療学部との人事交流事業

Keio Academic-Practice Partnership in Nursing (KAPPN) 開始

看護医療学部と看護部とが人事交流を通して連携を強化し、看護教育と看護実践能力を高めることを目的に新たな取り組みを開始しました。その取り組みについて紹介します。

1) 看護部から看護医療学部へ 看護基礎教育への参加

現任教育担当 学4期生 晝間 優里

学部3年生の慢性期・終末期看護学の春学期の講義・演習、秋学期の実習に携わっています。講義・演習の企画から運営まで一連の教授活動に参加して看護教育の手法を学び、現任教育への応用を目指しています。また、臨床の看護師が授業段階から看護基礎教育に関わることで、より実践的な学習につながるよう、学びの場と臨床との連携に努めています。



慢性期ケア実践 学生カンファレンス

2) 看護医療学部から看護部へ

看護部教育担当 短4回生 内田 智栄

(1) 管理能力開発に関する研修への参画・実施

看護医療学部 小池智子准教授を講師として、病院職員の管理者を対象に研修を企画・実施しています。

① 師長・課長職対象の管理能力強化のためのケースメソッド研修

ケースメソッドとは、参加者中心型の主体的な学びを実施するための教育手法として世界中で実践されています。具体的なケースを用いて、管理者に必要な実践力や分析力、問題解決能力などの向上を目指しています。今年度は16名が参加し能力強化に取り組んでいます。

② 主任・副主任対象のナッジ研修

ナッジは、人々を強制することなく望ましい行動へそっと後押しする仕組みで、医療現場にも活用されています。今年度は26名が参加し、楽しい仕掛けを考えながら業務改善に取り組んでいます。

(2) 現任教育プログラムの企画への参加

2024年度は看護医療学部 福井里佳准教授が新人教育プログラムの企画に参加しています。より効果的な研修となるよう、現任教育担当とともに討議、検討を重ねています。また、看護基礎教育と現任教育が連携し、看護基礎教育と臨床現場で求められる能力との乖離が少なくなるような取り組みも始めています。

3) 看護研究連携

今年度看護部の事業目標の一つに看護研究の推進を掲げています。看護医療学部研究推進委員会を中心に研究テーマのマッチングを行い、共同で研究していくことを始めています。アカデミアと臨床とが融合しながら多くの看護研究から新たな知見が生み出され、患者さんへ還元されることを目指しています。



看護医療学部長の挨拶

紅梅会の皆様へご挨拶を申し上げます。看護医療学部は2001年に開設され、早いもので今年25年目になります。2026年には学部開設25周年記念事業を開催します。卒業生を含めた企画委員会が始動し、準備を始めました。周年事業を機に、学部の来し方を振り返り、未来を展望したいと思います。そして慶應看護コミュニティのつながりをさらに強めたいと思います。

本学部は昨年、日本看護学教育評価機構による外部評価を受審しました。その結果適合の認定をうけました。これをきっかけに分野別評価を通して学部教育を自己点検しましたので、これを活かしさらなる教育の質向上に取り組みたいと思います。昨年は慶應義塾大学病院看護部の皆様と、人事交流の仕組みKeio Academic-Practice Partnership in Nursing (KAPPN) をつくりました。看護部スタッフが学部教育に携わり、学部教員が看護部の管理・教育に関わることを通して教育と実践を相互に高め合うことを目指しています。また研究連携のためのマッチングも始めており、臨床における共同研究が活発に進むことがとても楽しみです。

さて、本学部はグローバル教育に力を入れておりますが、今年は短期留学受け入れプログラム(科目名「国際看護実践I(国内)」)にビルゼイト大学の看護学生3名が参加しました。ビルゼイト大学は、紛争が続くパレスチナ・ヨルダン川西岸地区にあります。例年の参加校である乙支大学(韓国)、復旦大学(中国)、シンガポール国立大学、サフォーク大学(英国)、ワシントン大学・ピッツバーグ大学(米国)、そして本学部の看護学生たちが、紛争地での看護、健康格差の課題等について学び、考え、ディスカッションしました。学生間交流を通して、グローバルな視野で世界の健康問題、医療格差の現実的課題をより深く考え、理解する機会とな



看護医療学部長 野末 聖香

っていました。このプログラムでは慶應義塾大学病院や諸施設での見学実習が行われ、紅梅会の皆様には今年もお世話になりました。ありがとうございました。

今年は、学部一研究科5年一貫教育プログラム初の修了生が誕生しました。本プログラムは学部4年次に健康マネジメント研究科の科目の一部を先取り履修し、研究科入学後1年で修士課程を修了するプログラムです。通常、修士号の学位取得には2年を要しますが、このプログラムに入れば1年で取得できます。日本の看護系大学では他にない、キャリア形成の幅が広がる先駆的な取り組みです。研究に関心ある学生にはぜひチャレンジして欲しいと思っています。

少子高齢化が急速に進み、医療技術、デジタル技術の発展、AIの導入は保健・医療のあり方を変えていくでしょう。時代の大きなうねりの中で、看護を取り巻く課題の解決に取り組み、未来を切り開くリーダーの育成が極めて重要です。私たちは、人々の命と健康を守り、well-beingを支える看護の実践家、イノベーター、グローバルリーダー、研究者の育成に、皆様のお力をお借りしながら取り組んでいきたいと思っています。今後も引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

来年夏
イベント予告

慶應義塾大学看護医療学部 開設25周年記念事業

2026年
6.14(日)

内容

場所

SFC看護医療学部校舎

パネルセッションや交流企画など、在校生、OBOG、教職員のみなさまが楽しめる企画を鋭意検討中！

最新情報は各種SNSグループにて
随時発信！ぜひご参加ください



お問い合わせ等は看護医療学部事務室まで
E-mail: nmc-hm@adst.keio.ac.jp

看護医療学部だより

医療系三学部合同特別実習 ～対象者の声に耳を傾ける～ 2024年度 学部4年生 佐藤 磨依

8月19日～31日の2週間、医学部、看護医療学部、薬学部の希望者、計30名で北海道稚内市にて第2回地域診断実習を行いました。地域診断とはその地域の様々な健康課題、社会問題を調査に基づいて明らかにし、地域を保健分野・社会分野でより良くするためのお手伝いをするという公衆衛生学・保健学的な手法です。事前学習では医学、看護学、薬学の視



点を融合し、意見交換を重ねた結果、コミュニティ・アズ・パートナーモデルを用いて地区の特徴を分析し、健康問題や社会問題における仮説を立てました。

現地では多くの方にインタビューやアンケートにご協力いただきました。実際に稚内で生活されている方の声を聞くことで事前学習では分からなかったことを知ることができ、より地区の課題や魅力を深めることができました。三学部の学生から成るグループ毎に私たちの班は世代別の課題を魅力で補い解決していくという方針でアクションプランを立てました。立案したアクションプランをご協力いただいた方々にむけ発表し、現地での実習が終了しました。今回の実習を通して、対象の方の声に耳を傾けることの必要性を改めて学びました。物事に対して意図せず先入観を持っていることがあり、そのような時に自分の考えだけで判断するのではなく、当事者や対象者の話を聞くことで本来の問題やニーズを捉えることが出来ると考えました。この学びを看護師として臨床で勤務するうえで大切にしていきたいと思います。

2024年度ピンングセレモニー

2024年7月30日、看護医療学部3年生102名によるピンングセレモニーを開催しました。これまで、ピンングセレモニーは湘南藤沢キャンパスで2年次に行われていましたが、私たちの学年からは信濃町キャンパスの北里講堂で3年次に開催されました。春学期の座学・実技演習を終え、臨地実習に向けて良いスタートを切るために、それぞれが自身の理想とする看護師像を考える貴重な機会となりました。また、私たちは「どのような困難な状況に直面しても、チームとして支え合い、乗り越えていく」という想いを込め、全員で1つのステートメントを作成しました。ピンングセレモニーでは、3年間共に学んだ学生の伴奏で塾歌を斉唱し、ピンバッジの授与は、1年生から3年生の春学期までお世話になった先生方をお願いし、計10名の先生方が私たちのナース服にピンバッジをつけてくださいました。また、

2024年度 学部3年生 松本 沙羅

野末看護医療学部長のご挨拶に加え、伊藤公平慶應義塾長、北川雄光常任理事、金井隆典医学部長、有田誠薬学部長から励ましのお言葉をいただきました。さらに、茶園美香紅梅会会長、加藤恵里子大学病院看護部長からも温かいお言葉を贈っていただきました。加えて、実習に向けて紅梅会の皆様より、学生全員にトートバッグを贈呈いただき、慶應看護の歴史を胸に、各領域の臨地実習に臨みました。



ステートメント



ピンバッジ授与

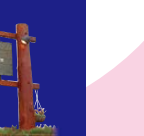
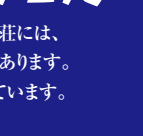
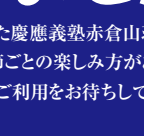
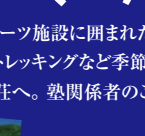
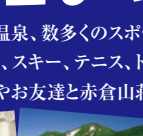
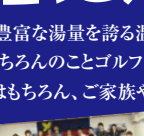
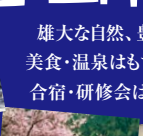


慶應義塾赤倉山荘 www.sanshikai.jp/akakura/index.html



赤倉山荘に泊ってみませんか？

雄大な自然、豊富な湯量を誇る温泉、数多くのスポーツ施設に囲まれた慶應義塾赤倉山荘には、美食・温泉はもちろんのことゴルフ、スキー、テニス、トレッキングなど季節ごとの楽しみ方があります。合宿・研修会はもちろん、ご家族やお友達と赤倉山荘へ。塾関係者のご利用をお待ちしています。



お申し込み・お問い合わせ

赤倉山荘	赤倉山荘管理事務局(三四会内)
電話: 0255-87-3900 FAX: 0255-87-3905	電話: 03-3359-0227 FAX: 03-3358-0664
e-mail: ak-ko@hyper.ocn.ne.jp	e-mail: info@sanshikai.jp



2024年度新会員紹介

成長の日々

私は4月から慶應義塾大学病院小児科病棟で勤務をしています。中学生のころに看護師を志して以来、「小児科で働きたい」という夢を持ち続けてきた為、希望通りに小児科への配属が決まったときは本当に嬉しかったのを覚えています。

私は幼い頃大きな怪我や病気を経験したことがなく、毎日学校へ通うのが当たり前の生活でした。しかし小児科には長期間家族と離れて過ごしながらか病棟で授業を受けつつ、辛い治療と向き合っている患者さんが多くいます。彼らの入院生活を当たり前だと思わず、少しでも楽しい時間や希望を感じてもらえるような看護を目

学20期生 佐藤 永愛



指したいと思っています。しかし、知識や技術はもちろん、患者さんへの向き合い方もまだまだ思うようにいかず、日々反省の連続です。それでも熱心にご指導くださる先輩方のおかげで、少しずつ成長を実感できています。これからも学びを続け、一人でも多くの患者さんの笑顔を見られるよう努力を重ねていきたいです。

入職から8ヶ月が経って

私は慶應義塾大学病院の消化器内科、皮膚科病棟で働いています。今までは学生として看護を学ぶのが主であったのが、入職してからはそれに加えて様々な疾患を抱えて生活を送っている患者さんに対して看護を実践、指導していく立場となりました。知識、技術その他さまざまな面でまだまだ未熟で業務の中で行き詰ることが多々ありますが、病棟の先輩や指導者に優しく、時に厳しく指導していただきながらそれぞれの患者さんにあった看護を実践できるように心がけています。

業務の中で感じたこととして、看護師とは患者さんにとって「自分

学20期生 中島 要



の疾患の治療を受けていく中で出現する医療的、精神的な問題について相談することのできる一番身近な窓口である」ということです。そのような存在であることを自覚しながら、これからも患者さんが落ち着いた環境で疾患と向き合うことを支えられるような看護師を目指して日々学習、成長していきたいと考えています。

自分の理想の看護を追い求めて

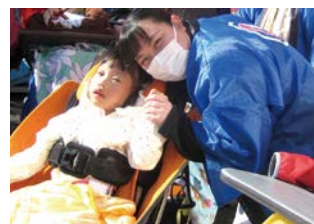
私は現在、障害児者支援事業を行っている東京小児療育病院で勤務しております。

当院に就職した理由は、医療的ケア児が増加している社会的背景も踏まえ、障がいと共に生きる人々を継続的かつ包括的に支援できる看護師になるためです。

私は病棟の看護師として、主に長期入所者とショートステイ利用者の看護や生活援助を行っています。利用者様の多くは言語表現が困難な方です。その中でも、当院を“生活の場”とする利用者の方々が少しでも安全安楽に楽しく過ごせるよう、一人一人を理解し、相手のニーズを考えたり、喜怒哀楽を共有したりしています。また、今年の夏からは自分の受持ち利用者が決定し、その方のQOLを向上させる看護計画を考えています。

学20期生 藤本 愛音

私は当院に一人で飛び込んできて、友人作りから看護業務まで一からのスタートとなりました。それでも毎日楽しく、多くの人に支えられながら日々成長している気がします。まだまだ未熟ではありますが、明るく自分らしくあると共に、常に目標を持ち、自分自身が看護師であることを誇れるよう精進して参ります。



※患者様の許可を得て掲載しています。

周りの方への感謝の気持ちを忘れず、信頼される人に

私は在学時に、すべての人がより豊かに暮らすことができる環境づくりに携わっていききたいとの思いから一般企業への就職活動をし、現在、インフラ企業に勤めています。現在の部署では電話対応や社内外に向けた資料づくりなどのいわゆるデスクワークだけでなく、地域のイベントへブースの出展、社外対応といった地域渉外業務に携わっています。

看護や医療に直接的に関わる仕事ではありませんが、看護医療学部で学んだ、目の前の一人に寄り添い、その人を全人的にみるという視点はビジネスの場面においても今の私の基盤となってい

学20期生 杉沢 佳子



ます。また、大学時代の友人たちに会うこと、同期や先輩方、先生方の存在が私の活力になっています。

まだまだ未熟ではありますが、これからも周りの方への感謝の気持ちを常にもち、社内外の方から信頼していただける人になれるよう頑張っています。

能登半島地震の経験と今

2024年元旦に能登半島を襲った「令和6年能登半島地震」を体験された短大8回生、和倉温泉多田屋の若女将である多田弥生さんに、リアルな震災体験を綴っていただきました。

「能登の復興を信じて」

2024年1月1日、旅館は沢山のお客様とスタッフの笑顔で溢れていた。今年も素晴らしい年になるだろうと皆が思っていた。が、しかし信じられない事が起きた。天地がひっくり返るとはこの事か。1月4日、お客様と従業員全員の安全を最終確認する事ができる。私は、緊張の糸が切れたのと同時に、もうどうにでもなれ！と余震が続く旅館の中で不貞腐れていた。そんな時、テレビからある映像が流れてきた。ライフラインが壊滅状態の中で奮闘している病院・介護施設スタッフの姿だ。私はハッとした。自分は看護師だったのではないか…。看護師だった経験が能登に来てからの私を支えてくれていたのではないか。自宅に走り、足の踏み場もない部屋の中で看護師免許を探す。あった…。私にも出来る事があるかもしれない。現在私はこども園で看護師をしている。子供達の笑顔こそが能登の宝である。能登の復興は私たち大人が

和倉温泉多田屋 若女将 短8回生 多田 弥生

やるものではない。この子供達が今後の能登をつくっていくのだ。旅館の復興は2027年以降。私は、子供達の笑顔に励まされ、子供達が健やかに暮らせるお手伝いをさせて頂いている。私の人生、看護師になる運命だった、そして若女将にもなる運命だったと日々実感している。



地震直後モニター



多田屋スタッフ一同

同窓生の災害支援活動

能登半島地震における活動

能登半島地震の発災から間もなく1年が経過する。石川県庁に設置された石川県保健医療福祉調整本部（以後、調整本部）において1月6日から4日間、また1月17日から6日間、日本看護協会（本会）の職員として活動した経験を皆様と共有する。主な活動内容は、被災地域の看護ニーズの把握・分析、災害支援ナースの派遣先や活動内容の調整、石川県と本会の連絡調整などである。特に、災害急性期である1月6日からの活動は、現地の状況が混乱する中、看護の状況の把握から始まった。調整本部と現地とのウェブ会議において看護の話題が上がると情報を取りに行き、災害支援ナースから届く活動報告などを確認し、さらに県の担当職員、石川県看護協会の会長や役員、本会がそれぞれ得た情報を共有し、被災地域の看護ニーズの把握・分析に努

日本看護協会 短11回生 鈴木 恵巨

め、被災地域で必要とされる支援の検討を進めた。また、感染症の発生・対応など含め、災害支援ナースが活動する個々の現場のニーズは日々変化し、迅速・柔軟な対応が求められた。被災地域で活動する看護職が役割を果たせるよう、本会と調整を行い、また、調整本部で活動する様々な専門領域のチームの看護職から助言・支援を得るなどして活動を行った。

復旧・復興への取組みが様々進められる中、医療提供体制の維持のための取組みも続いており、1日も早い復旧・復興が望まれる。

能登半島地震における災害支援ナースの活動に関する詳細は、日本看護協会ホームページをご参照いただきたい。

<https://www.nurse.or.jp/nursing/kikikanri/noto2024/index.html>

能登半島地震への災害支援ボランティア

●活動① ～輪島での緊急支援と情報収集～

1月2日に親交がある輪島の看護師に連絡を取り、1月3日～6日に、緊急支援を行いました。看護師2名で向かい、区役所や小学校の避難者100名程度に対して、健康状態把握、健康相談、患者搬送トリアージ、配食、食事介助を行いました。富山のホテルに泊まり、悪路の中を往復8時間かけて毎日移動しました。

●活動② ～孤立した珠洲からの搬送支援～

DMATに属しているケアプロ看護師の紹介で、珠洲の関係者を紹介してもらい、看護師2名で、1月14日～31日に、珠洲の避難所や介護施設、在宅から金沢市等への1.5次避難または2次避難を民間救急車両によって支援しました。22名の搬送を行い、DMATや消防の資源を活用せずに済みました。

ケアプロ株式会社 学1期生 川添 高志

●活動③ ～福井の二次避難所での生活支援～

3月1日～4月16日までは、勝山市市民交流センターの要介護者約10名の生活支援を行いました。東京などから9名の看護師や理学療法士等を手配し、日勤帯と夜勤帯にボランティアを行うことで、被災地域の医療介護人材の不足を間接的に補填することができました。

現地のニーズを把握し、ボランティアの役割を考え、人脈を駆使して、必要なリソースを調達することが大事でした。



※患者様の許可を得て掲載しています。



同窓生の幅広い活動

自分の「やりたい」を突き詰めて

私は、卒業後8年間、脳神経外科や血液内科に勤務し、子どもを育てながら闘病する患者さんを多く見てきました。その中で、病気の親（患者さん）の「家族」である子どものケアに関心を持ち、カリフォルニア州への4年間の留学を経て、認定チャイルド・ライフ・スペシャリスト（Certified Child Life Specialist）になりました。現在は、慶應義塾大学病院にて、入院、外来を問わず、患者さんとその子どもをサポートするために、毎日奮闘しています。

例えば、未成年の子どもをもつ患者さんの多くは、自身の治療と向き合いながら、親としての役割に葛藤を抱き、また、子どもに病気をどのように伝えたらよいか悩んでいます。一方で子どもは、大人が想像もしない誤解（「ママは、自分のせいで病気になった」と考えている等）をしていることもあります。このような「ボタンの掛け違い」で生じる親子のコミュニケーションのエラーを修正し、

学4期生 伏見 幸弘

親と子の気持ちの橋渡しをすることが、私の役割のひとつです。

また、小児患者にも関わります。侵襲的な処置や検査前にプレパレーションを行う際は、患児のこれまでの経験や発達段階に合わせた人形や遊具を活用して説明することで、その子なりの理解を促し、出来るだけ前向きな気持ちで診察や治療に臨めるよう、患児の頑張りを引き出すためのケアを行っています。

私はCLSとして、子どもの思いを代弁することで医療現場に子どもの声を反映し、子どもの権利が出来る限り尊重された医療の実現を目指しています。患者さんと、そして子ども達と、これからも真摯に向き合っていきたいと思えます。



施設看護師として感じる、大切にしたい思い

私は今、介護付き有料老人ホームで働いています。独居となり、この場所を終の棲家とされている方、病院から入居される方、バックグラウンドも様々です。看護師としての医療処置もちろん必要ですが、介護士さんの生活援助はそれ以上に欠かせない職場です。東南アジアからの就労ビザで働いてくれる仲間も多く、なれない環境や言葉に苦戦しながらも一生懸命にケアをしている姿を見て、彼女たちをもっと大切にしなければならぬと強く感じる日々です。

私たち施設看護師のケアは、エンドステージを迎えた皆さんに寄り添い、旅立ちを見送るまで続いていきます。どのような最期を迎えたいか、それを言葉にすることはとても難しく、想像す

学9期生 松田 美紗子

ることも容易ではありません。入職したての頃、もっと何かできたのではないかとばかり考え、落ち込むことが多かったですが、いつ何が起ころうとも不思議ではない場所です。関わった時間ではなく、その方にどのくらい心を傾けられたかに目を向けることの重要性を学びました。少しでも後悔のない関わりができるよう、毎日のケアに励んでいます。看護の本質とは何か、問い続けられる場所にいることを忘れずにいたいと思えます。

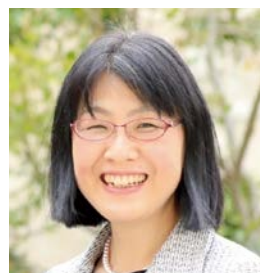


変わりゆく社会の中で様々な場で活躍できる学生の育成を目指して

短1回生 山岸 直子

私は慶應義塾大学病院で勤務後、慶應義塾看護短期大学・看護医療学部で教員となり、現在は埼玉県立大学の成人看護学領域に所属し主に慢性看護学を担当しています。授業では学生自らが考えて気づき学ぶことを大切に、臨床現場を再現した設定でのシミュレーション演習も行っています。実習では、学生は対象者の生活や思いを推し量り寄り添った関わりが難しい場合があります。そのため、対象者の置かれている状況や関わり場面の振り返りを丁寧に行う必要性を感じています。私が学生時代に抄読会をしながら学んだ「ケアの本質」（メイヤロフ、1987）は、ケアについて深く考える機会だったため、このようなケアを熟考する教育も取り入れたいと考えます。

大学院では、CNS課程必修のフィジカルアセスメントや成人看護援助論などを担当しています。研究活動では、糖尿病をもつ人の看護に関する研究に修士課程から継続的に取り組み、現在は高齢の糖尿病をもつ人のアセスメントツール開発に取り組んでいます。また、家族参加型ACP研修の開発、学生の臨床推論力を高める教育プログラム開発の共同研究も行っています。今後も変わりゆく社会の中で様々な場で活躍できる学生の育成に尽力したいです。



卒後37年目の送る言葉

先生方7名を含む総勢65名の三田倶楽部での開催から6年ぶり。夏の日差しを感じる6月の日曜日、87回生51名が銀座に集まった。北海道から沖縄全国津々浦々、卒業以来の参加者もあり、あちこちで歓声あがる。実習グループごとにおしゃれなテーブル札が置かれ、賑やかに着席。たちまち37年の時を超え、会場は笑顔や涙でいっぱいになった。

「え!1人1分?」

全員の声を聴こう!という幹事らの思いから、砂時計を睨みながらの1分間スピーチが始まった。目の前の友の姿は懐かしく、誇らしく、愛おしくて胸が熱くなる。ほとんどの人が現役で、プラチナナースと称されるに相応しく、タイムマネジメントは抜群。充実のひとつとなった。合間には80年代のBGMに乗せて思い出スライドショー。若い!可愛い〜!と大いに沸いた。即席講演「骨粗鬆症

87回生 高尾 純子

の予防」は的確で、大変勉強になった。

締めは我らが加藤看護部長が、慶應病院の取り組みについて、スマホを駆使して紹介。未来医療の実現に隔世の感を覚えた。しかし、どんなに世の中が変わっても変わらない私達。次の幹事は既に動きだしている。丈夫な骨を保って、再会を心待ちにしたいと思う。



厚生女子学院74回生同窓会

いよいよ古希を迎えるにあたり、いつも都内で行っていた同窓会を地方でやってみよう企画しました。開催地は山形の天童、幹事は旧姓の寒河江さんと鳥村さんのお二人。11月17日各々天童の開催する旅館(ほほえみの空湯舟つるや)に集合。山形から在来線乗り換えでできた同級生をしり目に、三浦英子先生、大本(旧姓小林)ゆみこ先生は新幹線で天童につき、市内にある美術館(天童市美術館・羽羽桜美術館)を探索してからの颯爽と登場。同窓生達も山寺などを回ってからの集合でした。旅館は趣きのある和モダンのお部屋、温泉は弱アルカリの美肌つるつる湯場で、部屋割りは4人・3人と寮生活を思い出すような状況。山形の最高の食材で食べきれないほどのお料理と美味しいお酒を堪能しながら、思い出に花を咲かせました。更に、二次会は各お部屋の前に話しのできるスペースで、持ち寄ったお酒とつまみで一気に10代の学生に戻り、思い出話に花を咲かせ夜中近くまで楽し

74回生 近藤 咲子

みました。

翌朝一番に恩師お二人の颯爽と去っていくかっこいい姿に見蕩れつつ、私たちがこれから年齢を重ねていく時に、目指すものがこんなにも身近に存在してくれていることに心からの感謝と幸せを感じました。また、元気で再会できることを約束して解散となりました。



お久しぶりに小田原で温泉旅行

私たち厚生女子学院進学科6回生は、担任の“三上れつ先生”と“矢田眞美子先生”と共に5月末、小田原の天成園でクラス会を楽しみました。4〜5年ぶりの集まりに15名参加。小雨の降る中、九州からも3名の参加。ホテルロビーでお顔見かけるなり『あら〜〇〇ちゃん元気〜』とそう広くないロビーに黄色い声?が飛び交いました。夕飯は小田原在住のクラスメイトお勧めの店で海鮮料理。今も現役でお仕事されている方の話に始まり、定年退職後趣味や地域活動を楽しんでいる方、町内会の役員で中心的な活動をしている方、毎日ジョギングを続けロコモティブシンドローム予防に励んでいる方 また 家族の介護に向き合っている方、コロナやインフルエンザの応援に駆け出されている方、ボランティア活動を通して地域健康支援に関わっている方など現在の活動話題はつきません。

進学科二部6回生 高橋 豊子

ホテルに戻って温泉で美肌に磨きをかけ、夕飯後のスイーツは美味しいお茶と手作りの和菓子を持参。ご当地お菓子の差し入れもあり、おやつタイムとまたお喋り。翌日も小雨模様、『漁港の駅 TOTOKO小田原』に立ち寄り、次回は北関東回りでお会いしましょうと企画提案し 帰途につきました。





2024年度紅梅会役員・委員

会 長	(66)	茶園 美香	編集委員	(学17)	小林 由衣	研修委員	(学17)	大久保 和夏
副 会 長	(74)	近藤 咲子		(学17)	高鍋 佳奈美	役員推薦	(短7)	◎水野 美也子
書 記	(学1)	田村 紀子	準備委員	(学18)	吉田 碧		(学18)	三浦 菜穂
	(学10)	藤原 聡子		(84)	◎江河 都美	ホームページ	(学19)	高堀 香菜
	(短10)	峰山 満美		(短9)	新藤 香織		(学12)	◎阿部 祐里
会 計	(学4)	晝間 優里	研修委員	(短9)	赤木 紀子		(短1)	藤井 純子
	(学6)	杉原 弘容		(学5)	星野 真理子		(短3)	神谷 桂
会計監査	(70)	立川 臣子	研修委員	(学12)	大和田 紗代		(学5)	佐久間 有紀
	(短10)	志間 佐和		(学4)	◎小柳 淳		(学8)	葛西 優輔
編集委員	(学15)	◎池田 多喜子		(学5)	天野 秀基		(学12)	野中 菜摘
	(学3)	橋本 敬子		(学15)	吉田 奈央		(学17)	中川 莉奈
	(学4)	山崎 糸子		(学17)	吉崎 爽平		() : 卒業回生 ◎ : 委員長	

紅梅会事務局よりお知らせ

1. 住所・氏名等の変更は、次のいずれかの方法で必ず事務局までご一報ください。

①メール・郵送・FAX

②QRコードの登録変更フォーム

コチラから→



2. 会費の納入にインターネットバンキングをご利用いただけるようになりました。口座番号はホームページをご確認ください。

事務局在室時間：木曜日 10時～16時

(状況により在宅勤務および出勤日を変更することがあります)

長期休み：夏休み8月、年末年始2週間程度

メールアドレス：koubaikai.1934@gmail.com

直通電話・FAX：03-3341-8116 短2回生 船江 裕美

ホームページ委員会からのお知らせ

ホームページ委員会では、卒業生へのインタビューや受賞実績の紹介など、幅広く記事を作成しています。過去の会報や総会報告も掲載しております。2023年にホームページを一新し、今年の年間アクセス数は2600件でした。ぜひご覧ください。

また、多様なキャリアを紹介するためのインタビューへの協力や推薦図書投稿などで活気あるホームページ運用にご協力ください。インタビューをしてほしい方や、推薦図書について情報をお待ちしています。活動にお力添えいただける会員様も引き続き募集しております。委員のメンバーまたはホームページのお問い合わせフォームよりご連絡いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。



2025年度 紅梅会委員会のメンバーを募集しています！

塾外で活動されている方も含めて、多彩なメンバーで、紅梅会を盛り上げていきたいと考えております。休職中の方や遠方にお住まいの方もメールやLINEなどで連携を取り、活動していただいています。

お気軽に紅梅会事務局までメールでお問い合わせください。 koubaikai.1934@gmail.com



訃 報

2024年12月31日現在

23回生	瀬下 千代	2024年 3月21日	52回生	大塚 紀志子 (旧姓山口)	2024年 5月30日
24回生	鈴木 憲子	2024年 6月15日	53回生	佐藤 千代子 (旧姓高橋)	2024年 4月24日
28回生	秋山 志世子 (旧姓田村)	2023年 6月18日	57回生	小山 律子 (旧姓本田)	2023年10月10日
34回生	小菅 好子 (旧姓吉橋)	2023年12月 1日	68回生	渡辺 ひろ子 (旧姓椎名)	2022年 3月12日
准3回生	水上 祥子 (旧姓辻本)	2023年 3月11日	高看2回生	今田 きよみ (旧姓石塚)	2018年12月28日
49回生	本橋 富有子 (旧姓宮)	2024年 3月14日			